

自己評価報告書(最終報告)

コース等名

幼年発達支援コース

記載責任者

浜崎 隆司

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ. 学長の定める重点目標

Ⅰ-1. 教員就職率向上方策について

本学は第二期中期目標・中期計画において、「学士課程において教員就職率を70%以上にする」と明記している。教師を目指す学生が一人でも多く自己の進路希望を実現できるよう、この数値目標を達成するのはもちろんのこと、より一層教員就職率を上げるため、貴専攻・コースではどのような取り組みを行うか。具体的な方策を示してほしい。

1. 目標・計画

幼児教育専修では、保育士資格取得と幼稚園教諭免許取得を目指しており、両方の取得が幼稚園教諭としての就職条件になりつつある社会的背景を踏まえ、教員や保育士を目指す学生に対しては、1年次よりコースの教員による個々の学生への綿密な実習事前事後指導および実習指導、さらに教員・保育士になるための心構えや動機づけについての支援を行う。さらに、コースが収集している採用試験に関する情報、及び過去の修了生、卒業生からの採用試験に関わる情報を学生に積極的に提供し、就職に対する意識や意欲を高める。また、就職支援室で企画される模擬授業、模擬集団討論等の就職支援事業への積極的参加を促し、学生の就職活動をサポートする。

2. 点検・評価

幼児教育専修では、教員や保育士を目指す学生に対しては、1年次よりコースの教員による個々の学生への綿密な実習事前事後指導および実習指導、さらに教員・保育士になるための心構えや動機づけについての支援をコース教員全員の協力のものに行った。さらに、コースが収集している採用試験に関する情報、及び過去の修了生、卒業生からの採用試験に関わる情報を学生に積極的に提供し、就職に対する意識や意欲を高めた。また、就職支援室で企画される模擬授業、模擬集団討論等の就職支援事業への積極的参加を促し、学生の就職活動をサポートした。幼児教育専修の学生も積極的に就職活動を行い、コース教員の支援の基に全員の幼児教育関連の就職ができた。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

教育に関しては、学生の教育実践力向上を図るため、附属幼稚園教員や幼年発達支援コースの修士課程を修了した保育士に、幼児教育、保育内容に関わる講義の嘱託講師として登用し、保育現場により即した実践的指導力の養成を目指す。さらに、卒業論文・修士論文の指導に関しては、年2回の中間発表および最終発表等の開催を通して、専修・コースの教員全員による指導が受けられるような指導体制をとる。特に、実習や授業でのトラブルや悩みを持つ学生、研究論文作成が遅れがちな学生に対しては、コース内の教員で状況を共有し、学生への即応態勢をとる。

2. 点検・評価

教育に関しては、学生の教育実践力向上を図るため、附属幼稚園教員や幼年発達支援コースの修士課程を修了した保育士に、幼児教育、保育内容に関わる講義の嘱託講師として登用し、保育現場により即した実践的指導力の養成を行った。さらに、卒業論文・修士論文の指導に関しては、昨年度卒業論文に関する中間発表会および最終発表会を開催した。専修の教員全員による指導を行った。特に、実習や授業でのトラブルや悩みを持つ学生、研究論文作成が遅れがちな学生に対しては、コース内の教員で状況を共有した。実習に関しては、全員が一定の評価を受け終了した。卒業論文に関してもコース教員の細かい指導のもと論文を完成させた。

Ⅱ-2. 研究

1. 目標・計画

コースの教員が各自、科学研究費の申請や研究充実のための環境整備に努める。
コース内教員が共同で幼児教育に関わる教材開発を行う。
さらに、コースでの共同研究を昨年に続きフレンドシップ事業等として立ち上げ、研究を展開する。
昨年に続き、連合大学院の博士課程後期の学生と共同研究体制を組みその成果を、学会発表、論文化することを目的とする。

2. 点検・評価

コースの教員が各自、科学研究費の申請や研究充実のための環境整備に努める。昨年度は2件の応募があり、1件採択された。論文は、コース内の教員の共著で2件(1件は審査有、1件は審査無)書評が1件。
学会の自主シンポジウム(保育学会)の企画を行った。
コース内教員が共同で幼児教育に関わる教材開発を行った。具体的には保育の心理学に関する教科書を共同で執筆した。
さらに、コースでの共同研究を昨年に続きフレンドシップ事業等として立ち上げ、研究を展開した。
連合大学院の博士課程後期の学生と共同研究体制を組みその成果を、学会発表、論文化した。具体的には学会発表2件(日本応用心理学会)、1件の査読論文1件(日本応用心理学会)

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

大学運営の根幹となる各種委員会に出席し、職務を遂行する。特に、学部教務、大学院教務関係及び学部入試、大学院入試関係、さらに学生支援関係の運営に積極的に関わる。

2. 点検・評価

大学運営の根幹となる各種委員会に出席し、職務を遂行する。
昨年度学部教務、大学院教務、学部入試、大学院入試、の各委員会委員、副委員長 さらにに学生支援関係の運営では、模擬面接、模擬集団面接等の支援を行った。
エコアクション21専門部会の委員としても参加し学内のエコアクションに協力した。附属幼稚園の学校評価委員会委員、及び運営評議会委員として学内貢献に努めた。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

1. 目標・計画

以下の具体的な活動を通して附属学校・社会と連携、及び国際貢献を進める。
① 附属幼稚園や協力園との連携を教育実践フィールドや共同研究、共同プロジェクト研究として深めるとともに、相互の教育・研究の発展に努める。
② 教育支援講師・アドバイザーをはじめ、積極的に保育所・幼稚園等に出向き、助言等を行う。
③ 地域の子育て支援事業に学識経験者や専門家として参加し地域連携を図る。
④ 国外の留学希望者を積極的に受け入れる。

2. 点検・評価

① 附属幼稚園や協力園との連携を教育実践フィールドや共同研究、共同プロジェクト研究として深めるとともに、相互の教育・研究の発展に努めた。例えば、幼稚園、保育所に、月に2~3回開催される附属幼稚園の合同研究会に参加し、保育実践に関わる共同研究に加わり、その成果を附属幼稚園研究紀要にまとめた。
② 教育支援講師・アドバイザーの登録を行い、積極的に保育所・幼稚園等に出向き、助言等を行った。例えば教育支援アドバイザーとして三好市および阿南市の幼稚園、松茂町の小学校、その他2か所で講演を行った。また徳島市国公立幼稚園の研修会の講師として講演した。
③ 地域の子育て支援事業に学識経験者や専門家として参加し地域連携を図った。鳴門市の福祉児童審議会会長として参加し、地域の子育て支援政策策定に協力した。
④ 国外の留学希望者は希望者がなかったため昨年度の受け入れの実績はない。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)